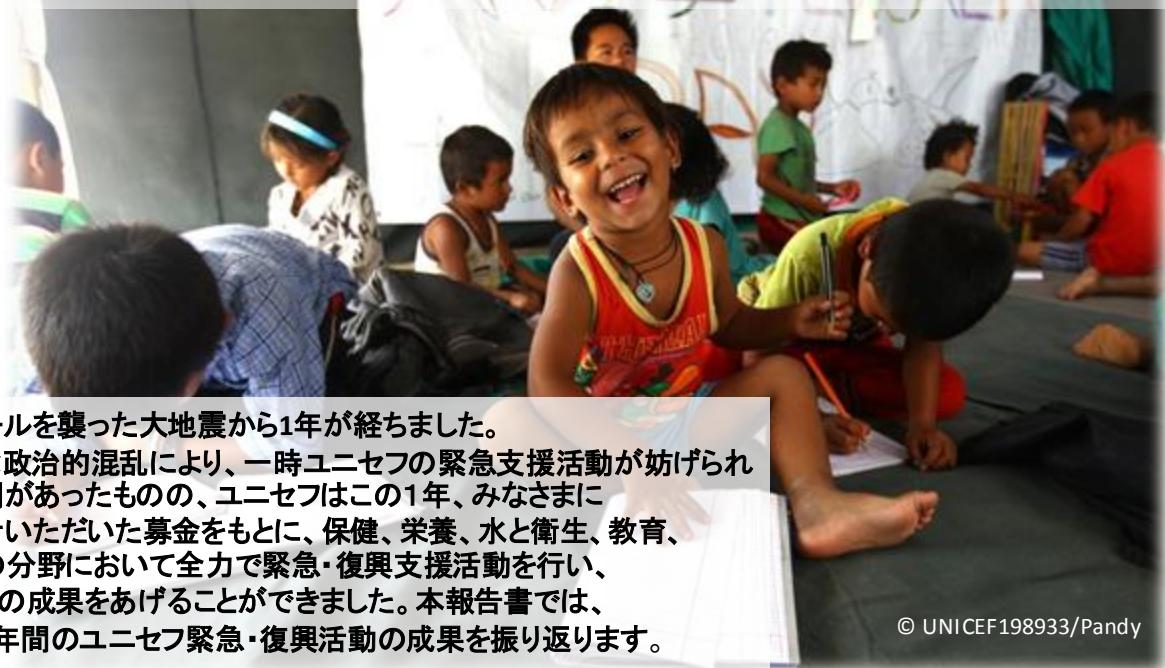
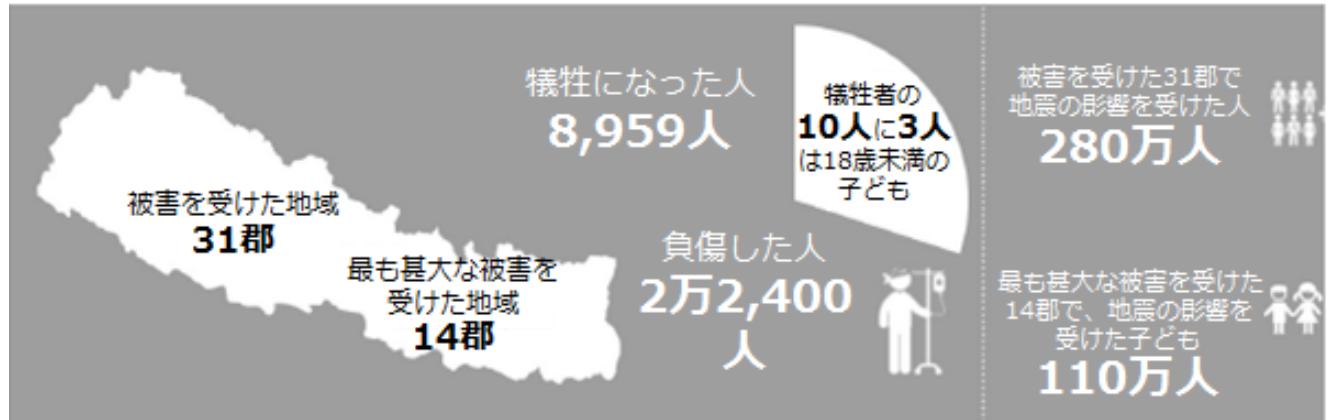


ユニセフ・ネパール大地震 緊急支援 1年報告



■ ネパール大地震から1年 ~被災状況アップデート



全壊した家
60万5,254棟



全壊または損壊した
トイレ
38万8,000



大きな被害を受けた教室
3万5,000



全壊または損壊した
保健施設
765カ所

■ 募金の状況

- 必要な支援額：1億2,000万ドル(約149億円)
- 各国からの支援：1億1,790万1,523ドル* (約147億円)
- 日本ユニセフ協会：1,308万9,954米ドル** (15億7,542万5,590円)

【出典】ユニセフ・ネパール事務所
「ネパール地震緊急支援レポート」より

*2016年4月5日時点

**2016年5月1日時点

※1ドル=124.33円で計算

■ユニセフの支援活動

保健



© UNICEF NEPAL/2015/NSHRESTHA

支援活動事例

- 診察用テント・医療用機材や医薬品の提供
- 妊産婦と赤ちゃんのためのシェルター提供
- 予防接種の実施
- 下痢性疾患を治療するORSや亜鉛の提供
- 保健員への研修



© UNICEF NEPAL/2015/KPANDAY

■ 保健分野の支援成果例

ユニセフの支援活動	ユニセフが活動する対象人数	これまでに支援を提供した人数
最も被害を受けた地域の子ども6~59ヶ月に対して、 はしかの予防接種 を実施	50万4,000人	53万7,081人
最も被害を受けた地域の5歳未満の子どもに対して、 下痢症への治療 を提供	28万人	40万6,181人
最も被害を受けた地域の新生児の母親に対して、 緊急・保健ケア の提供	4万1,850人	4万6,522人

■保険分野の支援概要

1年を通じて、被災地のニーズへの対応と、基本的な保健サービスの修復を重点的に行ってきました。被災地の5歳未満児を対象にはしかとポリオの予防接種を実施し、最も被害が大きかった11の地区では出産前後の必要なケアを受けられる仮設助産施設22ヶ所の設置などを行いました。

冬にはシェルターに防寒対策を施し、子どもたちや母親があたたかく過ごせるように毛布を配布しました。将来の災害にしっかりと備えるため、ユニセフは今後数ヶ月で、被災した9つの地区で、耐震性が高く、分娩設備などの必要な資機材を十分に備えた保健施設を74ヶ所に設置します。



© UNICEF Nepal/2015/KPanday

■コラム：コールド・チェーンのイノベーション

子どもたちを様々な病気から守るために、予防接種はとても大切です。実はワクチンは8°Cよりも温かくなってしまうと効果がなくなってしまうため、常に冷やして保存・運搬しなくてはなりません。この仕組みを、「コールド・チェーン」と呼んでいます。ユニセフは、災害に強い冷却装置を導入することで、被災地におけるコールド・チェーンシステムを向上できるよう、支援を行う予定です。導入される新しいワクチン保冷庫は、既存のものよりも冷却効率の良い技術が採用されていて、電力のないところでも10日間はワクチンを保存することができます。



© UNICEF Nepal/KPanday

栄養

支援活動事例

- 避難所等での子どもの栄養状態の調査
- 栄養不良の子どもの治療
- 高カロリービスケットや栄養治療食の配布
- 母乳育児の指導



© UNICEF Nepal/2015/NShrestha

■ 栄養分野の支援成果例

ユニセフの支援活動	ユニセフが活動する対象人数	これまでに支援を提供した人数
急性重度栄養不良の6~59ヶ月の子どもに対して、すぐ口にできる栄養治療食を提供	2,500人	1,575人
子どもの栄養障害を防ぎ、栄養状態を改善するための微量栄養素パウダーを6~59ヶ月の子どもに対して提供	32万3,775人	32万6,091人
0~23ヶ月の子どもの母親に対して、母乳育児や離乳食に関する情報やカウンセリングを提供	12万6,000人	14万2,731人

■ 栄養分野の支援の概要

ネパールではおよそ10人に4人の子どもが慢性栄養不良に苦しんでおり、地震が起こる以前から子どもの栄養は重要な懸念事項でした。ユニセフも援助した「児童栄養週間(Child Nutrition Week)」キャンペーンは、最も被害を受けた地域の5歳未満児と妊婦の90%以上を支援することができました。

ユニセフは今後も引き続き政府公認の“栄養回復プログラム”的発展を支援し、この枠組みのもと、定期的な栄養評価やモニタリング、家庭レベルでの食の安全や生活の支援など、様々な活動を続けていきます。



© UNICEF Nepal/2015/NShrestha

■ コラム：緊急栄養支援で隠れた栄養不良の子どもを発見

4歳のアクリティは、低体重で生まれ、最近まで病気がちでした。しかし、震災後、ユニセフの緊急栄養支援が彼女の村でも行われ、アクリティは重度の栄養不良ということが発覚しました。

アクリティは“プランピーナッツ”などの栄養補助食をもらって、みるみる回復。今では元気に村を走り回っています。



© UNICEF NEPAL/2015/NSHRESTHA



© UNICEF NEPAL/2015/KSEKINE



© UNICEF NEPAL/2015/KPANDAY

支援活動事例

- 净水剤や衛生キットの配布
- トイレや給水ポイントの設置
- 給水設備やトイレの修復
- 衛生知識の普及

■ 水と衛生分野の支援成果例

ユニセフの支援活動	ユニセフが活動する対象人数	これまでに支援を提供した人数
最も被害を受けた地域の住民に対して、飲用、料理、衛生に適切な 安全な水 を提供	84万人	132万4,969人
最も被害を受けた地域の住民に対して、 衛生的な環境と手洗い場 の提供	84万人	42万5,469人
最も被害を受けた地域の住民に対して、 衛生に関する研修や教材 の提供	84万人	89万589人

■ 水と衛生分野の支援の概要

今回の地震によって給水設備とインフラが大きな損害を受けたため、ユニセフは被災者たちへの必要最低限の水や衛生設備の供給も重視しました。子どもや弱い立場にある人たち、その中でも、特に避難所に暮らす子どもや弱い立場にある人たちの間で、下痢やコレラ等の病気が広がるのを防ぐため、徹底的な衛生推進を行いました。

ユニセフは今後も政府を支援し、そしてパートナー団体と協力して給水設備やトイレを運用・維持するための物資や研修を提供していきます。具体的な計画としては、今後数ヶ月の間に、被災地において3,000の給水網の調査、修繕、改修を行い、安全な水を提供する予定です。



© UNICEF Nepal/2015/CSKarki

■ ストーリー ~トイレの復旧が生活を変えた~

ティルマヤさんはおなかが空いても、喉が渴いても、飲み物や食べ物を口にしません。現在彼女は避難用のテントで生活をしていますが、トイレはなく、屋外でせざるを得ない状況となっています。しかし、テントのまわりにはいつも人がいて、足が悪いティルマヤさんは遠くへはいけなかったのです。

彼女の悩みはユニセフが村の中にトイレと給水施設を設置したことで改善されました。

「テントの近くに簡易トイレが設置されて、本当に助かりました。これできちんと食事もできるし、夜中までトイレを我慢しなくてすみます」とティルマヤさんはユニセフの支援に感謝しています。

教育



支援活動事例

- 仮設の臨時学習センターの設置
- 教師への社会心理ケアの研修
- 学習教材、備品の提供

■ 教育の支援成果例

ユニセフの支援活動	ユニセフが活動する対象人数	これまでに支援を提供した人数
最も被害を受けた地域の子どもに対して 仮設の学習環境 を提供	18万3,640人	17万9,300人
最も被害を受けた地域の教師に対して、子どもたちへの 心理社会ケア、命を守るために必要な知識を学ぶ研修 を実施	8,106人	8,125人
被災した子どもたちに、 学習教材や学校に必要な備品 を提供	100万人	88万1,100人

■ 教育分野の支援概要

地震発生直後から、ユニセフは教育省やパートナー団体と緊密に連携しながら、できるだけ早くすべての子どもが学校に戻れるよう活動してきました。最初の地震から5週間後の5月31日には、学校の倒壊などにより学ぶ場を失っていた1万4,000人の子どもたちが、仮設の学習センターで授業を受けることができるようになりました。そして今、160万人の子どもたちが新年度をスタートさせています。また、地震によるトラウマを抱える子どもたちのために、8,125人の先生が子どもたちへの社会心理ケアの方法や、被災時に命を守るための知識を学ぶ研修を受けました。

ユニセフは、今後数ヶ月間で、仮設校舎800棟を建設します。また、2016年から2020年の新しい教育計画策定にあたっては、学校の安全についての課題を盛り込むことも計画しています。



■ コラム：教育のイノベーション

携帯電話のメッセージ機能を通じて教員たちと情報共有ができるティーチャー・ヒーロー・ネットワーク(THN)というシステムに、1,300人以上の先生が登録しました。これまでに、9,000以上のメッセージや写真による情報が交わされ、各学校の状況が共有されています。

ユニセフが支援しているラジオプログラム「バンダイ・スンダイ」で、このネットワークに参加している数人の先生が交流し、現在の課題や優良事例が紹介されました。

子どもの保護



支援活動事例

- 「子どもにやさしい空間」の開設
- テントや防水シートの配布
- 孤児や家族と離散した子どもの保護

© UNICEF/UNI184517/

■ 子どもの保護分野の支援成果例

ユニセフの支援活動	ユニセフが活動する対象人数	これまでに支援を提供した人数
最も被害を受けた地域の子どもに対して、地域に根ざした心理社会ケア、および専門家による 心理社会ケアサービスの提供	16万5,300人	18万0,570人
最も被害を受けた地域の住民に対して、ジェンダーに基づく暴力、人身売買などの暴力、虐待、搾取を未然に防ぐため、地域ボランティアによるケアの提供	14万3,500人	16万1,877人
地震によって家族や保護者と離れ離れになってしまったり、保護者が伴わずに避難したと登録された子どもを、家族と再会、もしくは適切な代替的ケアの提供	登録された子どもの100%以上	516人が家族と再会しました

■ 子どもの保護分野の支援概要

地震直後からこれまでの間、ユニセフは児童福祉局やパートナー団体とともに、保護者と離れ離れになっている子どもたちを見つけるための支援活動を行ってきました。この活動で、保護者を伴わない子どもたちの身元の確認を進め、人身売買のリスクから子どもたちを守り、そして、あらゆる形態の搾取から子どもたちを守ることができました。震災後、ユニセフは保護者のいない子ども3万9,337人を見つけ、そのうち、1万3,317人は緊急の心理社会的支援を受けました。



© UNICEF/UNI198924/Shrestha

■ コラム：障がいのある子どもたちの保護

ユニセフは、被災14郡内に5,245人の障がいのある子どもたちがいることを確認。このうち、222人の子どもたちが避難用シェルター、学習教材、緊急時の医薬品や医療などのサービスの提供を受けました。

さらに、1,911人の障害のある子どもたちに、安全で、誰もが受け入れられる「子どもにやさしい」遊び場が提供され、震災で受けた心の傷やトラウマから回復できるよう配慮しました。



© UNICEF Nepal/2015/NSHrestha

◆ シンドウパルチョック村 スニル・ラナ・マガール(10)



ユニセフの支援に感謝！

“私の家族には住むおうちがもうありません。
みんなで仮設テントで暮らしています。
学校も崩れてしまいました。校庭もありません。
大きなトラックが通ると、建物が揺れて、また大きな地震が
きたのではないかと怖くなります。
大きなストレスと恐怖の中で生きています。
でも、ユニセフの支援で楽しく勉強できる教材や
文房具をもらって、とても気が紛れています。
ユニセフの支援に感謝しています。”

◆ ユニセフ親善大使 デビッド・ベッカム



ユニセフの仮設学習センターの子どもたちを訪問して

“ユニセフのような機関がどのように被災した子どもたちを支援しているのか、普段あまり人々の目に留まることのない活動に光を当てるため
に、私は今日ネパールを訪れました。”

“ユニセフはこのような仮設の学校をネパール中に建設し、地震の被害
に遭った子どもたち世代が教育の機会を失うことがないように支援して
います。多くの子どもたちが両親や友達を失い、破壊された自宅を目の
当たりにしています。しかしうニセフの支援のおかげで、子どもたちは
今、学んだり、遊んだり、体験を打ち明けたりすることができる場所を、
手にすることができます。そしてここでは、被災した子どもたちが再
び子どもらしい姿に戻ることができます”

◆ ユニセフ・ネパール事務所代表 穂積 智夫

日本の支援者のみなさまへ

日本のみなさま。ユニセフ・ネパール事務所代表の穂積智夫です。
ネパールは、2015年4月25日に発生した大地震で、甚大な被害を
受けました。昨年4月以来、日本の支援者の皆様には本当に多大
なご支援を頂き、誠にありがとうございます。頂いた貴重なご寄付
を最も効果的な支援活動につなげていくよう、所員一同常に努力して
おります。それにより、これまでの1年間、緊急支援・復旧の分野
ではかなりの成果をあげることができました。しかし、まだまだ被
災地の完全な復興への道は長く、またネパールには今回の被災地
以外にも貧困・災害の災禍にさいなまされている地域・危険地域が
非常に多数あります。今後ともネパールでのユニセフの活動全般
に、ご支援とご協力をお願いします。



ネパールの子どもたちに対するみなさまのあたたかいご支援に感謝いたします。